

教 育 資 料

平成12年度第2号

**自己をコントロールする力が育ち、
自己肯定感が実感できる学習の在り方**

(第1集)

平成13年3月

京都府総合教育センター

刊 行 に 当 た っ て

21世紀の開幕は、国際化、情報化、高齢化など変化の激しい社会の中で迎えました。教育は大きな転換期にあり、今年度は世紀にまたがる歴史的な年度にあたりました。

各学校では新学習指導要領に結ぶ始動元年として積極的に受け止められ教育活動が進められています。教育改革はすべからく学校改革であり、学校改革は教職員の意識改革と実践の確かさに裏付けられて初めてできるものです。実践の確かさは児童生徒の生きる力の育成にみられ、生きる力の育成は、外部の評価を得て初めて確かなものになります。

意識改革の原動力は教職員一人ひとりの厳しいプロ意識に基づく自発的主体的な研修であり、各学校の組織的、計画的、継続的な校内研修と実践的研究にあります。ともあれ改革には各学校の課題に適切な情報を得ることが不可欠です。

京都府総合教育センターは、教育の転換期に研究事業として、本年度から3年計画で「自己をコントロールする力が育ち、自己肯定感が実感できる学習の在り方」を研究主題として取り組むことになりました。この研究は、平成10、11年度に行った「豊かな心を基盤とする生きる力をはぐくむ学校教育に関する研究」を土台に、物質的に豊かな時代の教育の課題を見据え、生きる力の育成の視点を「自己コントロール力」と「自己肯定感」において学習場面で実践的に研究し、その成果を各学校に提供していくことをねらいにしています。

そのため、研究の1年次にあたる本年度は、子どもたちの現状、自己コントロール力と自己肯定感を育てる学習の基本的な考え方、実践事例案などを理論研究としてまとめました。次年度は、この理論研究をさらに深め、各学校の御協力を得ながら、調査研究及び実践的研究に取り組み、その成果を平成13年度末に刊行する予定であります。

最後になりましたが、この教育資料が、各学校の課題の解決のための情報となり、心の教育や授業改善を進める上での参考資料として活用されますことを願っています。

平成13年3月

京都府総合教育センター

所 長 今 野 芳 子

目 次

刊行に当たって

| | | |
|-------|--------------------------------|----|
| 第 1 章 | はじめに | 1 |
| 1 | 研究主題 | |
| 2 | 主題設定に当たって | |
| 3 | 研究仮説 | |
| 4 | 研究の内容と年次計画 | |
| 第 2 章 | 子どもの現状と自己コントロール力と自己肯定感のかかわり | 3 |
| 第 1 節 | 子どもの現状 | 3 |
| 1 | 子どもにかかわる今日的な状況 | |
| 2 | 学校や学習に関する子どもの認識 | |
| 第 2 節 | 授業改善と学習活動における生徒指導 | 14 |
| 1 | 授業改善と資質や能力の育成 | |
| 2 | 学習活動における子どもの課題 | |
| 3 | 生徒指導と授業 | |
| 第 3 節 | 学習活動と自己コントロール力・自己肯定感 | 18 |
| 1 | 自己コントロール力 | |
| 2 | 自己肯定感 | |
| 3 | 発達段階とのかかわり | |
| 第 3 章 | 自己コントロール力が育ち、自己肯定感が実感できる学習の在り方 | 24 |
| 第 1 節 | 自己コントロール力と自己肯定感のかかわり | 24 |
| 1 | 学習における自己コントロール力と自己肯定感 | |
| 2 | 求める自己コントロール力と自己肯定感 | |
| 第 2 節 | 自己コントロール力が育ち、自己肯定感が実感できる学習とは | 30 |
| 1 | 自己をコントロール力とはぐくむ授業とは | |
| 2 | 自己肯定感をはぐくむ授業とは | |
| 3 | 学習場面における自己コントロール力の発揮 | |
| 4 | 学習場面における自己肯定感の実感 | |
| 5 | 自己コントロール力と自己肯定感を育てる学習をどうつくるのか | |
| 第 3 節 | 実践事例 | 37 |
| | 中学校国語科 | |
| 第 4 章 | 研究のまとめ | 46 |